

平成26年度家庭教育応援プロジェクト 沢田小・中学校親子の学び応援講座

◎期 日：平成26年12月6日（土）10:00～

◎実施PTA：石川町立沢田小中学校父母と教師の会

講師：笹田 琴美 氏 郡山女子大学家政学部人間生活学科講師 放送大学客員准教授

演題：「子どもの発達とメディアの影響」

参加者：保護者72名 教職員11名 地域家庭教育県中ブロック会議関係者9名 合計92名

【講演】

◇はじめに

○DV被害者の支援をしていたときに、DVが減らないのは、暴力的アダルトビデオの影響があるのではないかと考えていた。その後も研究する中で、ゲームやスマホが子どもの発達に与える影響を無視できなくなった。

◇スマホの所有の現状について

○スマホの所有率は、小学生31%、中学生55%、高校生88%で10歳～18歳の60%、女子高校生の95%が所有している。

○スマホを所有している子どものほうが、12時以降に寝ている割合やいらいらする・勉強に自信がないと感じている割合も高い。

○読む人が読めば誰か分かるような誹謗中傷を書き込むネットいじめや既読スルーを発端とした人間関係の悪化など、SNSで悩む子どもも多い。

◇ゲームによる影響について

○テレビゲーム・オンラインゲームを行うことで脳内に覚醒剤使用時と同じ程度のドーパミンが分泌される。脳内では、興奮と鎮静が繰り返され、耐性が強化されると同時に強い刺激を求めるようになっていく。ゲームへの依存性が高まっていく。

○アメリカでは、少年や高校生・20代でゲーム中に突然死する事例やゲームの影響で自殺する事例が報告されている。

○ゲームへの依存が高まってくると時間をコントロールするのが困難になったり、中止への強い抵抗があったり、邪魔するものに暴力を振るったりすることがある。

○1日1時間以上ゲームをする人は、ADHDの兆候を示しやすく不注意の症状が見られる。また、3時間以上ゲームをしている中学生の保護者の25%がゲームをするようになって冷たくなったと感じている。さらに言葉の発達の遅れを感じていた乳幼児がテレビ視聴をやめたところ回復したという事例もある。共感性や相手の気持ちを想像する心の発達がゲーム等によって阻害されている。

○ものまね神経細胞「ミラーニューロン」があることで、まねをしながら成長することができる。相手の立場を考える能力も同じであり、差別的に扱ったり暴力的に接したりするようなメディアに簡単に接することができるような現代社会では、様々な社会不適応問題が起きている。

◇まとめ

○依存からの回復のために

- ・子ども自身に気づいてもらう
- ・依存症のメカニズムと影響を教える
- ・変わりたい気持ちを見つける

○行動のコントロール

- ・子どもと話し合って何ができるのか考える。
- ・約束事は、「1日〇時間」ではなく、「夕食後はしない」とか「土日だけにする」などが取り組みやすい。

◇講座を実施して

様々な調査や研究から分かりやすく説明いただいたことで、心の発達へのゲームやスマホの悪影響やアダルトサイトなどに子どもが簡単に接することができるメディア環境が与える影響などについて理解を深めることができた。また、ほぼ100%ゲーム機を保有している実態から、子どものよりよい成長のためにゲームの使い方や携帯の与え方について考える機会となった。





教養厚生委員長のあいさつ



4名のボランティアの方々による託児が行われ、小さい子がいる保護者の方も安心して講演会に参加することができました。

【実践活動】

沢田小中学校では、石川町PTA連絡協議会で推進している「いしかわのじかん」に取り組み、親子のふれあいを深める実践を夏休みから9月末まで行いました。

◇テーマ『家族一緒に、すてきな時間を』

◎取組1 「ふくしまっ子チャレンジカード」

※沢田中学校とも連携して実施

小1 我が家の約束「家族みんなで食事をする。」

振り返り

子ども「よくできました。」

保護者「仕事だったり、子どもたちもスポ少だったり、なかなか家族そろって食事をするのが難しいですが、1日1回でもみんなで食事をするようにしています。達成できて良かったです。」

小6 我が家の約束「出かけるときにはあいさつする。」

振り返り

子ども「我が家の約束事がきちんと守れたので良かったです。これからも続けたいです。」

保護者「あいさつ、返事、とても基本的なことですが、実際なかなか難しい課題でした。改めてあいさつ、返事の大切さに家族全員が気づかされました。」

中2 我が家の約束「夕飯ではみんなで会話する。」

振り返り

子ども「ほぼ毎日会話することができ、家族とのコミュニケーションも楽しくできました。」

保護者「夏休みが終わっても『いしかわのじかん』をできるだけやりたいと思いました。」

◎取組2 「十七字のふれあい」「三行詩」への応募作品づくり

○作品集を作成し、授業参観で保護者に配布

○沢田小中学校父母と教師の会で独自に優秀賞・最優秀賞を選定し表彰

「十七字のふれあい」最優秀賞

○下学年の部 小1

子手伝うよ やさいのかわむき ママになる

母夏休み ママが二人だ たすかるね

○上学年の部 小6

母いつからか 娘の言葉に 励まされ

子いつまでも 母の言葉に 感謝する

「三行詩」最優秀賞 小6

ひいじいちゃん

迎え火で

年に一度の「おかえりなさい」

【いしかわのじかん】

ノーテレビ・ノーゲーム・ノーメール
家族一緒に、すてきな時間を

「いしかわのじかん」推進宣言

「い・し・か・わの時間への取り組み

「い」→いい時間 「し」→しずかな時間

「か」→かぞくの時間 「わ」→わたしの時間

～取り組み内容～

◇目標 週3回、各2時間程度

◇具体的な実施方法 勉強・読書・家族団らん など

◇学習時間には

テレビを消すこと・ゲームをしまうこと・メールをしないこと

子どもたちのこれからのために、学習習慣をしっかりと身につけさせ、家族の一員として毎日が充実して過ごせるよう、学校と家族が連携してすてきな時間をつくりましょう。ご協力をよろしくお願いいたします。



会長から表彰状を授与